

第3号議案

広域機関主宰 電源接続案件募集プロセスにおける 入札対象工事の決定について（東北北部エリア） (案)

本機関は、電源接続案件募集プロセス（東北北部エリア）（以下、「本プロセス」という。）について、以下のとおり、入札対象工事を決定する。

1. 入札対象工事について

(1) 決定する内容

	募集要領に記載の概要	今回決定する内容
対策工事内容	秋田地区から西仙台変電所までの500kV ルート構築	<ul style="list-style-type: none">500kV 出羽幹線新設275kV 南山形幹線、朝日幹線昇圧275kV 山形幹線昇圧、延伸八幡変電所、西山形変電所 500kV 昇圧・増設500kV 河辺変電所新設越後開閉所の 500kV 変電所化 他
募集容量	約 280 万 kW	約 350 万～450 万 kW 程度
入札対象工事費 (税抜き)	約 4～5 万円/kW	約 1, 273 億円 ^{※1}
工事完了予定時期 (本プロセス完了時から)	約 11 年後	約 11～13 年後

※1：対策工事のうち、本プロセスにて負担する工事費

(2) 決定に至った経緯

平成29年3月9日に公表した本プロセスの募集要領においては、入札対象工事は、接続検討（第2段階）回答時に決定し、応募者に通知することを前提に、概要のみを提示していた。今回、接続検討（第2段階）回答にあたり、応募状況等を踏まえ、「想定潮流の合理化」等の考え方を適用し連系可能量拡大を図ったうえ、入札対象工事を提示するものである。

2. 全ての応募者が連系可能な増強工事について

本プロセス募集要領において、応募容量が募集容量を超過した場合には、入札時に「募集要領に記載の増強工事」に加えて「全ての応募者が連系可能な増強工事」等を原則、提示することとしている。一方、システムの同期安定性を確保するためには、送電線等増強工事にあわせて、調相設備の設置などの電圧・安定度対策が必要となるが、これらの対策による同期安定性の向上効果にも限度があることから、入札対象としたとしても成立しない蓋然性が高いと判断し、本プロセス入札対象工事として「全ての応募者が連系可能な増強工事」等を提示しないこととする。

以上